



カンダール州タブロム村の親子 ©小林正典

認定NPO法人
幼い難民を考える会
CYR CARING FOR YOUNG REFUGEES

2012年3月
NO.101

Children, Our Future

子どもたちの明日

目次

【国内】被災地支援活動 <宮城県気仙沼>	2~3
【カンボジア】始まる、新たなスラム支援	4~5
CYR スタッフの1日<メット・セレイ・ロター>	6
織物だより <カンボジア・国内>	7
温故・写真	8

幼い難民を考える会(CYR)は、難民となったカンボジアの子どもたちがけんめいに生きようとする姿に触発され、1980年に設立されました。子どもたちが心身ともに成長し、その親たちが人間らしい生活環境のもとで自立できることが、難民を生み出さない平和な社会につながることを信じ、復興をめざすカンボジアで活動を続けています。



ここには昨年三月十一日まで「南気仙沼幼児園」がありました。津波で園舎は流され、園児たちに慕われた理事長も、犠牲となりました。いったん閉園となったものの、働く保護者らの切実な要望に応え、幼児園は「キッズ ROOM おひさま」に姿を変え、再出発しました。震災の二カ月後、平成二十三年五月のことでした。



(上) ついでペース。

(左) かつて園があったキッズ ROOM ふたり。基礎のみが残

(下) キッズ ROOM のロゴマー

ゼロからの出発

～ キッズ ROOM おひさま（民間緊急託児所）～

宮城県気仙沼市の倉庫に、子どもたちの声が響いています。ここは、0歳～5歳の41人が通う緊急託児所「おひさま」です。保育スペースには間仕切りや水回りがありません。子どもたちは、つい立てで隠したおまと簡易トイレを使っています。先生たちは、消毒に大忙しです。

「人」が足りない

おひさまの保育時間は早朝から夕方遅くまで、土曜保育も行っています。開園当初10人だった園児は、4倍に増えました。ところが保育担当者は3人しかいません。人手不足は深刻です。それを知ったCYRは、保育セットの寄贈に加え、先生たちの負担軽減と保育の知見提供を目的に、保育士の派遣を決めました。

派遣されたのは、長年の経験を持つ職員の山極小枝子。カンボジアにも赴任していました。

たくましい子どもたち

「行ってよかった」。2月下旬、約3週間の派遣から戻った山極は、短期間でしたが、人材不足を補えたと感じています。先生たちのゆとりは、保育の充実につながります。子どもた

ちが安心して楽しく過ごすために、先生の心の安定は欠かせません。

被災地の保育現場では、子どもたちから学ぶことが多かったようです。震災前後で一変した状況。しかし子どもたちは毎日、そこにある環境で精一杯生きています。「子どもはたくましい……」。山極の率直な感想です。

「育ち合う」

保育は年齢別に行うことが多数派です。しかし被災地ではままならない場合があります。年齢の異なる子どもたちが一緒に過ごす現場で山極は、「異年齢保育」の持つ可能性を目の当たりにしました。「おやつは大皿に盛っていましたが、何も言わなくても、大きな子は小さな子にあげるんです」。おひさまで子どもたちは、「社会性」「他人への思いやり」「問題解決能力」「お互いがんばること」を自然と身につけているのです。

おひさまは4月から、日曜保育を始めます。被災地だからこそ、子どもを預かる必要があると考えるためです。

「震災で、人とのつながりの大切さを感じました」と、里見栄美代表は話してくれました。「応援してくださる方たちへの恩返しのため、なにより子どもたちの笑顔のために、必ず前進して行きます」。



飲食店の倉庫。さまざまな工



で隠した用足しス

、南気仙沼幼児
場所にたたずむ、
M おひさまの先生
波で流され、基
る。

ROOM おひさま



(左) 子どもたちは毎日、
元気いっぱい過ごす。

(下) 仕切りのない保育室では、
0歳～5歳までの子どもたち41人
と一緒に保育を受けている。



©小林正典



車を借りた仮の園舎。保育環境を整えるため、
夫が施されている。

保育セット第2弾 完成!

「すぐに使うことができる」
「手作りのあたたかみを感じる」

被災地の保育現場で好評の CYR の保育セット第2弾が完成。今回も、個人や企業など、多くのボランティアさんのご協力で、手作りの品をたくさん盛り込むことができました。

セットは順次、被災地の保育施設に届いています。



協力: TOY工房どんぐり

カンボジアにおけるCYRの新たな協力団体、現地NGOのCCDOは、スラムの子どもたちを対象とした支援事業を行っています。CYRが初めてその現場、アンドン村を訪れたのは、昨年のことでした。

プノンベン郊外に位置するこの村の住人は、2005年に市内のスラムから転居させられました。およそ260世帯、3000名あまりの人たちが密集した集落に住んでいます。3畳ほどの掘っ立て小屋に5人で暮らす家族や、収入がまったくない家族もいます。

CCDOの設立は2010年11月。貧しい家庭の子どもたちのため、カンボジア人女性トラーさんが保育所運営に乗り出しました。子どもの権利の保護や衛生状態の改善、児童虐待に関する地域住民への教育や就労支援などの事業を行っています。

トラーさんは長年、CYRの事業協力団体である現地NGO「ケマラ」で働いていました。子どもが家族や地域の中で十分な保護を受け、安心して過ごすことができることの必要性を、強く感じていたそうです。アンドン村の状況を調査したとき、困っている人たちのための事業を始めたいと決心しました。不衛生な環境で、十分な食事を摂ることができずに生きている子どもたち、収入の道を見つけれずにいる大人たちの力になりたいと、新たな事業に大変意欲的です。

事業に必要な資金繰りに奔走し、今年4月から建物の施工を始める予定です。仮の場所で昨年12月に開始した地域保育所には、すでに60名もの子どもたちが集まり、にぎやかな声を響かせています。

始まる、スラムの



地域幼稚園は、 いま

地域幼稚園：地域住民が主体となって運営する保育の場。3時間程度の簡易なものを中心に、さまざまな形態を有するカンボジアの新しい保育様式。



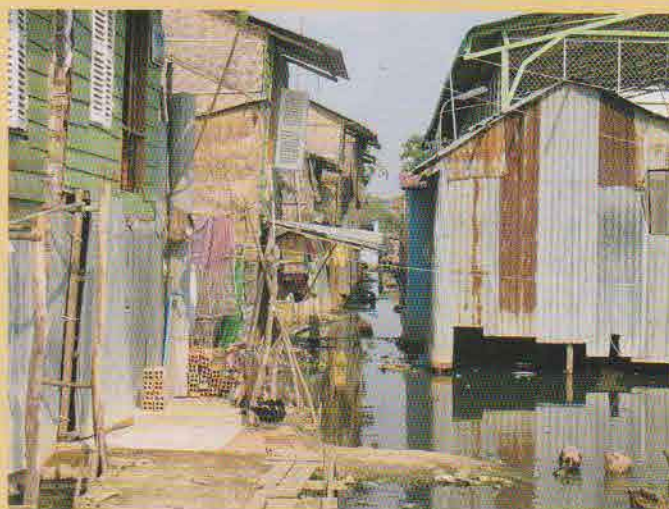
タプロム・プラサートから

2011年10月にプラサート・タプロム村の両地域幼稚園がCYRの支援で開園して、4カ月が経ちました。園庭にはすべり台やシーソーなどの外遊具が設置され、子どもたちは見たことも、遊んだこともない遊具に興味津々、笑顔いっぱい遊んでいます。

開園当初、好き勝手に動き回っていた子どもたち。先生は毎日大奮闘でしたが、今では並んでうたを歌い、静か



子どもたちへの新たな支援



(上段) 高床式の掘っ立て小屋に多くの人が住むアンドン村。職業訓練用の布地が置かれ、狭い屋内を圧迫している。ゴミや汚水による衛生問題は深刻。

(下段) 60人の子どもが通うCCDO運営の地域保育所。仮の園舎は手狭だが、みんな元気に遊び、学び、食べている。



にお話に耳を傾けることができるようになりました。

タプロムはとても貧しい地域で、家庭内暴力の事例が少なくありません。その影響か、以前の子どもたちは、少しからだに触れただけで握りこぶしで叩き合い、先生はその仲裁に大わらわだったそうです。

けれども子どもたちは、毎日幼稚園に通って来るうちに身だしなみが整い、あいさつができるようになりました。みんな仲良く遊ぶことの楽しさを知り、振りつきで



歌ったり、待ちきれずに保育時間前に登園して来るようになりました。今後の成長がとても楽しみです。

カンボジア事務所保育担当 重富 浩子





CYRスタッフの1日… その③

CYRの活動はなんとなく分かるけれど、スタッフは何をしているの!?
みなさんからこんな疑問が寄せられました。
意外と見えにくいNGOスタッフの仕事、第3弾です。

メット・セレイ・ロター (26)

カンボジア事務所 織物販売担当 (2009年～)

プノンペン法律経済大学で、財務銀行業務 (Finance and Banking) を勉強後、メコン大学でビジネス英語を学ぶ。2008年からCYRカンボジア事務所で織物販売事業のパートタイムスタッフとして働く。2009年9月からフルタイムとなり、事務所併設の手織物製品販売店 (CYK Handicraft) に勤務。

「子どもの未来と女性の自立・収入向上のための活動を、国内外の人たちに伝えたいです。仕事に意気込みを感じています！」

8:30
出勤

開店時間にあわせて出勤。お店は日曜日も開けているので、月に1・2回は休日出勤します。



午前中

仕事内容: CYK Handicraftでの製品の展示販売、在庫管理、発注、検品、縫製者への支払い、型紙・織布見本帳作り、資材買い出し、納入など、さまざま。



12:00 ~ 13:00

事務所でお昼

この間は、他のスタッフが店番



大変なこと: 仕事の種類が多いので、間違えないように気をつけている。



これからのチャレンジ:

他店にはない模様のピダン^(注)販売に力を入れたい! CYRの製品は、良質で長持ち、環境に優しいことを、もっと知ってもらいたい。



17:00
閉店・帰宅

午後



閉店後、その日の売り上げの集計・確認を行う。

(注) ピダンは絵餅(えがすり)といわれる絹織物で、餅の技法で染織されています

しぼり染め体験コースを始めました！

2012年2月、タケオ州トロピアンクラサン村の織物研修センターで、自然染色のしぼり染め体験コースを始めました。このコースは、カンボジアを訪れる日本人の方を対象に開催していたものですが、好評につき、カンボジア在住の方々にも楽しんでいただくこと



2010年、CYRのスタディツアー参加者が、しぼり染めを体験しました。

になりました。

昨年、CYRの織物事業は、「地球」や「ひと」に優しい天然素材100%の染めに切り替えました。草木による染色は、手間がかかります。しかし、天然素材で染められた色調には独特の風合いを持ち、癒し効果も持っていると言われています。

しぼり染めの醍醐味のひとつは、仕上がりの模様が想像できないことです。世界にひとつだけの素敵なオリジナルのスカーフ作りに挑戦してみたいかですか。やわらかい色合いの手作り作品。それを身につける喜びと出合っただけでしたら、なによりです。

カンボジア事務所織物事業担当 大木 明子

※ 体験コース

料金：\$12（スカーフ、材料費込み）

時間：9:30-11:30

お問い合わせ：CYR 東京事務所

国内織物ニュース

自然からもらった色で染められた織物

右は届いたばかりの新作です。自然が生み出した色だけで鮮やかな絵模様が浮かび上がっています。

6月開催の「カンボジア 草木で染めた織物展」へ向けて新製品が つぎつぎに届いています。CYR 東京事務所のショップでもご覧いただけますので是非いらしてください。

カンボジア 草木で染めた織物展

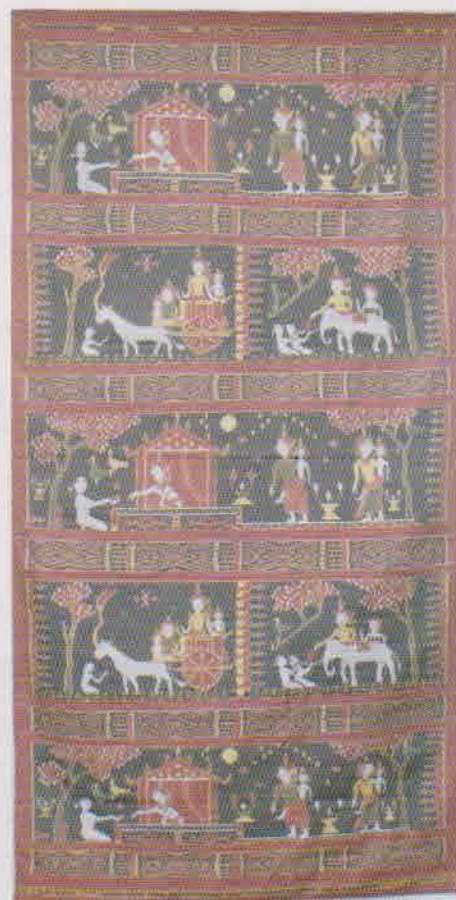
平成24年6月1日（金）～2日（土） 午前11時～午後5時 *入場無料

新作衣類やバッグを展示販売、ピダンは多数出展。展示品はカンボジア女性が糸から染め、大きな機（はた）で織った品。伝統織物を手にとってご覧いただける国内で唯一の展覧会です。ご来場の記念にプレゼントをご用意していますのでお問い合わせのうえお越しください。

会場：麻布高野山 正光院 〒106-0046 東京都港区元麻布3丁目2-20（麻布税務署向い）

主催：認定NPO法人幼い難民を考える会

お問い合わせ：電話 03-3943-6972 / 木村



ピダン ¥126,000

作者：ヤン・サルン

95cm x 180cm シルク 100%

染料：黒檀・ラック・プロフー

温故・写真

1980年代

1980年
カンボジア難民キャンプ
「カオイダン」

CYRの活動の原風景です



1981年



1980年

【営む】 生命がけで祖国から逃れたカンボジアの人びと。有刺鉄線によって外部から閉ざされた難民キャンプでの生活でしたが、大人たちは次第に「家庭に近い環境」づくりのための努力を始めました。竹かごを編む、配給米を挽いて食事を作る。日々の営みを繰り返すことは、生きがいを取り戻すことでもありました。たくましくキャンプ生活を送る大人の背中を見て、子どもたちは健やかに成長したのです。

書き損じはがき、未使用はがき、切手ご寄付のお願い

CYRでは、書き損じはがき、未使用はがき、未使用切手を集めています。
カンボジアや被災地への郵送料、会員のみなさまへのお便りに役立てています。

書き損じはがき、未使用はがき・切手のご寄付は、寄付金控除証明書発行の対象となります。
(はがきの寄付額は郵便局交換手数料を差し引いた額となります。)

大切に活用させていただきます。ぜひ、事務所までお送りください！

※使用済みテレホンカードや使用済み切手は集めておりません。ご了承ください。



* 募金 (カンボジア・被災地支援) のご協力をお願いします！



お振込みはごちやうまで

【郵便局】
郵便振替 00110-8-36227
加入者名 (特活) 幼い難民を考える会

【銀行】
三菱東京UFJ銀行 六本木支店 (普) 1351747
特定非営利活動法人幼い難民を考える会